

確認テスト

所属 _____

氏名 _____

権利擁護／虐待防止 事例検討編 ②「顕在化」している虐待行為」と「潜在化している虐待行為」

事例（Aスタッフのことは）

Aスタッフは高齢者施設での介護経験が豊富で、即戦力として期待されて中途採用されました。Aスタッフ自身もそのことを十分に理解し、この施設のやり方を早く覚えようと取り組むほか、人懐っこい性格も駆使して、他のスタッフや利用者とも積極的に関わり信頼関係の構築に取り組んでいます。

Aスタッフは新しく入所してきたBさんの担当になりました。Bさんには子がいません。夫が亡くなった後はずっと一人で暮らしてきました。

Aスタッフは相談員から簡単な引き継ぎを受けた後、Bさんの居室に行き、Bさんに向き合って「Bさん、今日からよろしくお願ひしますね」と挨拶しました。そして、ベッド横の床頭台に置いてある写真立てを指さし、「この写真はBさんの息子さん？」と質問しました。そのとき、Bさんの表情が一瞬くもりましたが、そのことにAスタッフは気がつきませんでした。Bさんが「いいえ、夫です」と答えると、Aスタッフは思わず「あっ！ そうだったそうだった。お子さんがいないって聞いていました。若いからてっきり息子さんかと思っちゃった！ あはは」と言ってしまいました。「早くに夫を亡くしましたので……」と話すBさんに「あー、そうだったんだ。でも、イケメンの父さんだわ」と言いました。

Aスタッフは、その後も訪室のたびに写真に向かって「父さん、待っててね。これから母さんを食事に連れて行きますから」と言ったり、「父さん、母さんをレクに連れて行きます。お留守番、よろしくお願ひします」などと話しかけました。

またBさんに対しても「父さんがあの世で心配しないようにリハビリがんばろうね」と言ったり、「今日は一杯食べたねー、きっと父さんもあの世で喜んでるよ」と言ったりしました。

ある日、Aスタッフがいつものように写真に話しかけて、「さあ、レクに行くよー」と言うと、突然Bさんから「あなたに夫のことを父さんなんて気安く呼ばれる筋合いはない！」と大声で怒鳴られてしまいました。

1) 顕在化している虐待行為は何だと思ひますか？

2) 潜在化している虐待行為は何だと思ひますか？

- 1) 顕在化している虐待行為は何だと思いますか？
- 2) 潜在化している虐待行為は何だと思いますか？

1) 解答（例示）

・Bさんから写真の男性が息子ではなく夫であることを教えられた時の返答として、「あっ！ そうだったそうだった。お子さんがいないって聞いてました。てっきり若いから息子さんかと思っちゃった！ あはは」と言った行為です。

<解説>

Aスタッフの思い込みで、写真の男性のことを息子だと勘違いして質問したこともさることながら、Bさんから「夫である」と教えられた時の対応として「あっ！ そうだったそうだった。お子さんがいないって聞いてました。てっきり若いから息子さんかと思っちゃった！ あはは」の発言は見過ごすことはできません。あらかじめ子どもがいないと知っていたにもかかわらず、むしろ自分がそう思い込んでしまったのは写真のせいだと言わんばかりの発言です。

自分の勝手な思い込みによる間違いについて謝罪することもなく、「思っちゃった」とか「あはは」という言動は責任転嫁の典型的なスタイルです。そうしたスタイルで押し切れると考えたとも受け取れますので、顕在化した虐待行為であると言えます。

2) 解答（例示）

・「あー、そうだったんだ。でも、イケメンの父さんだわ」と言った行為です。

<解説>

Bさんが「早くに夫を亡くしましたので……」と話してくれたにもかかわらず、その話には「あー、そうだったんだ」の一言で済まし、「でも、イケメンの父さんだわ」と続けてしまいました。これらの発言から、Aスタッフは自分が勘違いしたことを正当化させてしまおうという強い意思を感じられます。特に「でも」と否定の接続詞をつけたことで、自分の勘違いは写真のせいであるという言い訳をもう一度繰り返してしまいます。自分の勘違いの正当性を訴えていると考えられます。これらの発言は一つのセリフとして、Bさんに有無を言わせずに言い切っています。さりげなく、自分の立場の優位性をBさんに示したことになりますので、潜在化した虐待行為であると言えます。

<総合解説>

利用者について、スタッフが自身の勝手な思い込みから勘違いしてしまうことはあってはならないことです。さらにその勘違いの原因を利用者側にあるかのような言動は絶対に避けなければなりません。自分の勘違いの正当性を当の利用者本人へ訴えるなどという言動は、それ自体が心理的虐待、あるいは不適切なケアになってしまう危険性があります。